

令和8年10月吉日

各 位

東京学芸大学附属小金井中学校長
川島清美

令和8年度 教育研究協議会のご案内（第二次）

秋冷の候、皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本校では、令和8年度教育研究協議会を下記のとおり開催いたします。つきましては、多くの皆様にご参加いただき、ご指導・ご助言を賜りたく、ご案内申し上げます。

○日時 令和8年11月21日（土）9時00分～16時40分まで
（8時30分受付開始）

○研究主題

「学び問い続ける」生徒の育成―「人生を舵取りする」ための主体化再考―

○内容

- ・授業提案：国語,社会,数学,理科,音楽,美術,技術・家庭科(家庭分野),英語,道徳
- ・実践発表：国語,保健体育
- ・講演会：小玉重夫先生(白梅学園大学学長・東京大学名誉教授)
- ・研究主題の提案：本校研究部、松尾直博先生(東京学芸大学教授)

○会場 東京学芸大学附属小金井中学校 ・ 東京学芸大学

○時程

8:30	9:00	9:20～10:10	10:15	10:30～11:20	11:30～12:30	12:40～14:40	15:00～16:00	16:00～16:40
受付開始	授業・研究主題説明	公開授業Ⅰ 社会 数学 理科 英語 道徳	授業・研究主題説明	公開授業Ⅱ 国語 社会 数学 理科 音楽 美術 家庭 英語	昼休憩	教科別協議会 国語 社会 数学 理科 音楽 美術 技術・家庭 保健体育 英語	講演会 小玉重夫先生	研究主題 次期学習指導要領 本校研究部 松尾直博先生
					12:00～			
					道徳協議会			

※会場周辺は飲食店が限られるため、昼食のご用意をお願いいたします。

○参加費（資料代） 無料

○申込 <https://peatix.com/group/16588677>
詳しくは本校ホームページをご確認ください。



○公開授業Ⅰ

教科	学年	授業者	授業主題
社会	1 年	田崎 義久	銚子電鉄とナウル共和国
数学	3 年	北脇 恭介	変化の規則に着目して関数を捉え直す —「いろいろな事象と関数」の単元に焦点をあてて—
理科	1 年	宮村 連理	自己調整学習と生成 AI の協働によるアーギュメントの構成
英語	2 年	荻原 真也	生徒のエンゲージメントを高める授業の工夫
道徳	3 年	福岡 由唯	戦地からの手紙～繋がれた証が私たちに呼びかけることは～

○公開授業Ⅱ

教科	学年	授業者	授業主題
国語	1 年	愛甲 修子	「世界」に向けて学び問い続けるために —宮澤賢治「オツベルと象」—
社会	3 年	泉宮 一喜	生成 AI と協働する株式会社づくり —私たちの「願い」を社会で形にする選択—
数学	2 年	柴田 翔	説明のしくみ
理科	2 年	宮口 真木子	人体の「世界」の片鱗をつかむ ～第 2 学年「心臓の拍動」と心電図・心音図の関係～
音楽	1 年	田川 聖旨	既習鑑賞曲での学びを活かした創作合奏活動
美術	3 年	大根田 友萌	「学び問い続ける」姿の中継地点 ～実経験から辿るアートへの問いの変容～
技術・家庭科 (家庭分野)	1 年	溝口 幾子	「私の一着」どこからきて、どこへいく？ ～衣服の旅から考える、私たちの選択～
英語	3 年	青柳 有季	Lesson 6 Being Fair ～AI も活用して～

○協議会

教科	教科主題等	講評(敬称略)
国語	「学び問い続ける生徒」を育てる国語の授業(三年次) 実践報告 菅俊輔「生成 AI 時代における国語科学習の在り方」	上野 正道(上智大学教授) 勝田 光 (筑波大学助教)
社会	学び問い続ける生徒の育成(三年次)	上園 悦史(東京学芸大学教授) 日高 智彦(東京学芸大学准教授)
数学	数学を創り使う過程を重視した学びの追究 ～主体化に着目して～	小岩 大 (東京学芸大学准教授)
理科	科学的根拠を持って「問い」を見出す授業の研究(三年次)	和田 一郎 (横浜国立大学教授)
音楽	他領域での学びを相互に活かした表現・鑑賞活動の研究	石川 裕司 (東京学芸大学准教授)
美術	「生徒が築く美術」の授業から働きかける 「学び問い続ける」生徒の育成	相田 隆司 (東京学芸大学教授)
技術・家庭科 (家庭分野)	持続可能な世界に向けた行動を考える生徒の育成 ～「私の一着」から衣生活の背景を捉え、社会を問い直す家庭科の学び～	渡瀬 典子 (東京学芸大学教授)
保健体育 (体育分野)	心身の成長を通して、自らの可能性を見出す(三年次) ～技能の転移を目指した牽引法の開発を目指して～	森山 進一郎 (東京学芸大学准教授)
英語	生徒が自分の考えや気持ちを伝えようとする授業の工夫	馬場 哲生(東京学芸大学特任教授) 林 正太(東京学芸大学参与)
道徳	戦地からの手紙を通して考える、「生きる」とは何か ～学び問い続ける生徒の育成～	松尾直博(東京学芸大学教授)

○講演会：小玉重夫先生 ((白梅学園大学学長・東京大学名誉教授)

専門分野 教育学、子ども学(キーワード:ポストヒューマニズム、シティズンシップ教育)
著 書

『教育改革と公共性－ボウルズ＝ギンタスからハンナ・アレントへ』東京大学出版会、1999 年 7 月

『シティズンシップの教育思想』白澤社、2003 年 11 月

『学力幻想』筑摩書房、2013 年 5 月

『難民と市民の間で－ハンナ・アレント『人間の条件』を読み直す』現代書館、2013 年 10 月

『教育政治学を拓く－18 歳選挙権の時代を見すえて』勁草書房、2016 年 8 月

『民主主義と東京大学』東京大学出版会、2025 年 8 月(共著)

プロフィール

小玉重夫先生は、教育における人間と政治、社会との関係を思想研究によって問い直すことを研究テーマとされています。特に、ふだん自明のものとして受けいられている「教育」や「学校」を、歴史的・構造的な視点から相対化し、そのうえで、教育改革の筋道を追究していくことが、当面の研究課題とされています。具体的には、教育の公共性に関する思想研究(ハンナ・アレントの教育思想など)、公共性の担い手を育てるシティズンシップ(市民性)教育、政治的リテラシーの問題、教育政治学の構想、ポストヒューマンの視点からの教育学、子ども学の刷新など、幅広い研究に取り組まれています。

「学び問い続ける」生徒の育成―「自らの人生を舵取りする」ための主体化再考―

今年度も引き続き、ガート・ビースタ『世界中心の教育：現在へのまなざし』を参照点として、「主体化再考」を切り口に、「学び問い続ける」というテーマを深めている。「主体化再考」としたのは、本校の実践研究が「生徒を主体的にさせる方法」や「主体的な生徒の姿」を確定するものではないためである。

教師があらかじめ想定した姿を生徒が自発的に体現することではなく、「世界」との出会いの過程で、生徒の中に「私」が応答する可能性が開かれることを「主体化」と捉える。それは既成の教科の枠組みにおける思考や判断、表現を「中断・停止・保留」する営みに関わる。

今年度は以下の3点を実践研究の問いとし、教師が「主体化」に果たす役割を明らかにする。

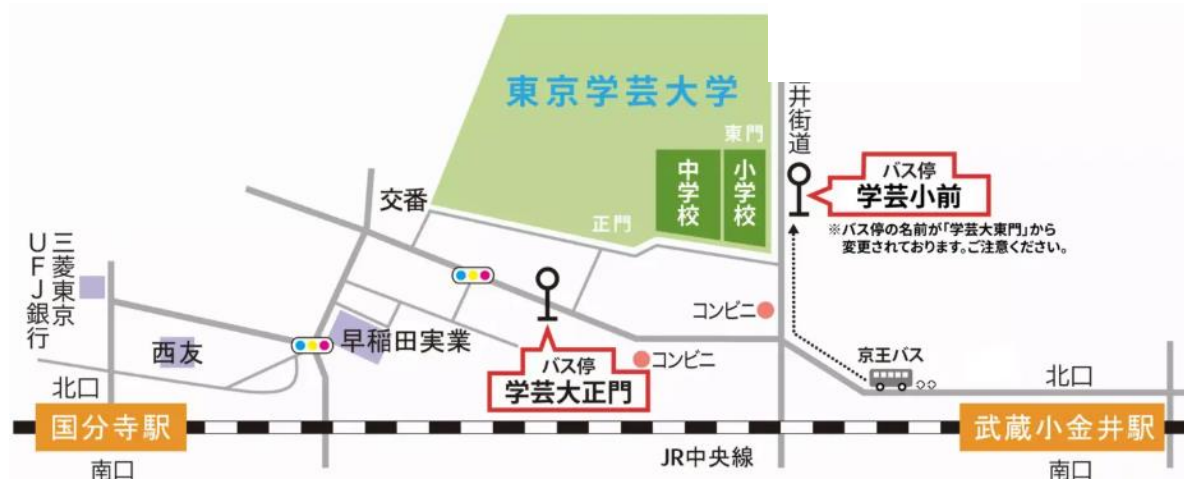
【問い1】教師はどのような「世界」を生徒に指し示すか。その世界は教師と生徒にとってどのような未知を内包しているか。

【問い2】教科における知識・技能の習得（資格化）や、伝統・文化への方向づけ（社会化）は、生徒の「主体化」にどう寄与するか。教師は主体化の可能性をいかに開くのか。

【問い3】生徒は世界をどう受けとめ、どのような「問い」を創発させているか。それは「主体化のきざし」と言えるのか。

教育研究協議会では、上記三つの問いを軸として授業提案を行い、生徒が世界との関係性において既成の思考等を「中断・停止・保留」する姿を「学び問い続ける」過程の一端として見取ろうとする。そのうえで教科固有の視点と、教科を越える視点の双方から検討を加え、「学び問い続ける」生徒を育成するための教師の役割について参加者とともに協議したい。

○本校へのアクセス



- ・JR 中央線 武蔵小金井駅より京王バス「中大循環」に乗り、【学芸小前】下車
- ・JR 中央線 武蔵小金井駅より京王バス「小平団地行き」に乗り、【学芸大正門】下車
- ・JR 中央線 国分寺より銀河鉄道バスに乗り、【学芸大学】下車
- ・両駅から徒歩 20 分程度

○お問い合わせ先 東京学芸大学附属小金井中学校 研究部

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

TEL 042-329-7833 FAX 042-329-7834

HP アドレス <https://www2.u-gakugei.ac.jp/~gkoganei/>